

レルヒ中佐の顕彰像

過日、旭川空港から羽田空港に向かい空港駐車場に着くと、日本で最初に本格的にスキー指導を行った「テオドール・エードラ・フォン・レルヒ中佐」の像が初秋の秋晴れにそびえ立っていた。

レルヒ中佐(オーストリア人)は、1912年に北海道の旭川第七師団に赴任して、旭川春光台でスキー講習会を行い、本格的にスキーの普及させる原点になったのが旭川の地であった。

なお、道内には旭川空港にレルヒ像、旭川市春光台公園に北海道スキー発祥の地碑、倶知安町レルヒ記念公園にレルヒ中佐の像が建立されている。



旭川第七師団飛行社前で、レルヒ中佐(左から9人目)と、受講生一同、明治45年(1912)2月20日(市立旭川郷土博物館提供)(p.4参照)



札幌のスキーはじめ、レルヒ中佐(真ん中の三銃筒)による札幌月寒の歩兵第二連隊特務兵のスキー講習、明治45年3月札幌郊外で。(北海道新聞提供)(p.8参照)



札幌郊外でのスキーの講習風景(大正7年)(北海道新聞提供)(p.9参照)

